

2013年 1月7日

博士学位論文審査報告書

大学名 早稲田大学
研究科名 スポーツ科学研究科
申請者氏名 石黒 えみ
学位の種類 博士（スポーツ科学）
論文題目 日本体育協会公認スポーツ指導者制度の今後の展望：
資格更新の局面に関する横断的研究
Prospects of JASA Coach Qualification：
Cross-sectional Study on Phase of Renewing
論文審査員 主査 早稲田大学教授 中村 好男 教育学博士（東京大学）
副査 早稲田大学教授 岡 浩一朗 博士（人間科学）（早稲田大学）
副査 早稲田大学教授 間野 義之 博士（スポーツ科学）（早稲田大学）

スポーツ指導者はスポーツ環境の充実に必要不可欠な存在である。スポーツ指導者の養成には国内外を問わず資格制度が導入されているが、有資格者の実態については、十分な研究の蓄積があるとはいえない状況にある。本研究では、我が国の代表的なスポーツ指導者資格制度である日本体育協会公認スポーツ指導者資格の「更新」の局面に焦点を当て、指導者の認識・実態について横断的に検討すること、そこから、今後の公認スポーツ指導者制度の今後の展望を提言することが本論文の目的である。

本論文は、第1章から第8章で構成されている。第1章「序論」では、我が国におけるスポーツ政策におけるスポーツ指導者の位置づけ、国内外の資格制度、資格の一般論について概説した上で、これまでスポーツ指導者資格に関する研究が不足していることを指摘している。第2章「研究課題および目的」では、主として先行研究により指摘されているスポーツ指導者資格制度における課題を整理するとともに、制度運営上、資格更新の局面における指導者の実態および認識を解明することの必要性について言及し、4つの研究課題を設定した。

第3～6章では、それぞれ設定された研究課題について検討を行っている。第3章「公認スポーツ指導者の資格保有理由に指導者の属性が及ぼす影響」では、公認スポーツ指導者資格保有理由と指導者の属性の関連について検討し、資格保有理由として「知識・技能を高めたいから」の肯定度が高いこと、職業・就業に関連する理由は若年層で肯定度が高いことを明らかにした。第4章「公認スポーツ指導者の資格辞退理由に指導者の属性が及ぼす影響」では、第3章に準じた手法により資格辞退理由と指導者の属性の関連について検討し、主たる資格辞退理由は「登録することによる指導上のメリットをあまり感じないから」、「資格がなくても仕事上問題ないから」等であった。また、指導者の属性の影響が確認されたのは17項目中「周囲（関連団体除く）に勧められなかったから」の1項目のみであり、資格保有理由と比較して、辞退理由は指導者の属性との関連が弱いことが示された。

第5章「公認スポーツ指導者の資格継続／辞退に指導者の属性が及ぼす影響」では、資格

継続／辞退と指導者の属性（人口統計学的特性および指導活動状況）との関連について検討している。資格継続／辞退と有意な関連が確認できたのは職業のみであり、指導活動状況と資格継続／辞退の間に有意な関連がみられなかった。

第6章「公認スポーツ指導者資格の受講・登録・更新の局面における資格保有（取得）理由の差異の検討」では、受講者・登録者・更新者の資格保有（取得）理由の差異について横断的に検討している。その結果、「知識・技能を高めるため」はいずれの群でも平均値がもっとも高い結果であったが、各群の比較では更新者が有意に低い結果となった。また、「資格がないと仕事上やりづらいから」では更新者の方が有意に高い値を示した。

以上の知見を踏まえて、第7章「総合論議」および第8章「まとめ」では今後の公認スポーツ指導者制度の今後の展望についての方策を提案している。まず、これまでの指導者育成事業では相対的に登録者・受講者に対して重点が置かれていたが、更新制を機能させるためには資格保有者に対してもスキルアップの機会を提供する必要があることを提案した。また、社会的に資格と職業・就職とのつながりが強まるなか、公認スポーツ指導者資格においてもそのような認識が一部で持たれ、制度本来の趣旨と指導者の認識に一部で不一致が生じている。さらに、指導者の活動状況・水準に関わらず、一律に資格が付与されていることにより、資格に対する認識が曖昧になっていると考えられることから、資格の分類について再検討する余地があることを指摘した。

本論文で特に評価すべき点として、国内で初めてスポーツ指導者資格保有者を対象に横断的な研究をおこなった点が挙げられる。これまで歴史的背景・社会状況を論拠に指摘されていた、資格の機能の曖昧さや更新制の意義といったスポーツ指導者資格制度の課題について、資格更新者等の認識・実態をもとに今後の方策について提案した点は評価に値する。第二に、本論文が取り扱った課題は、今後の我が国のスポーツ政策全体の中でも重要な位置づけにあるスポーツ指導者の育成に関して有用な情報になると考えられ、社会的意義も高いといえる。

なお、本論文に含まれる研究の一部は、末尾記載のように学術誌上で刊行されており、当該分野において、すでに一定の評価を受けているとみなすことができる。

以上のことから、本論文は、特にスポーツ政策に関連するスポーツ科学分野の発展に寄与するものと判断し、博士（スポーツ科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

【関連論文】

- ・ 石黒えみ、中村好男、間野義之．スポーツ指導者の属性が資格保有理由に及ぼす影響，スポーツ産業学研究（第23巻第1号掲載予定）

以上